



責任あるインクルーシブ・ビジネス (RIB)

CSR アジアでは、今年 9 月に香港で開催する CSR アジア・サミットで、「責任あるインクルーシブ・ビジネス (RIB)」に関する新たなツールについて議論し、オックスファムと協働で RIB に関する報告を数多く紹介し、アジアの RIB 情報のための新たなプラットフォームを発表する。

RIB のアプローチの背景はシンプルだ。世界人口の 3 分の 2 が貧困で基本的なサービスも受けられない状況にあり、またその経済や社会的立場を改善できるチャンスも限られており、特に女性の立場は弱い。また貧困層は人権侵害の被害者となりやすい。貧困削減への解決策を模索する上で大きな役割を果たすのがビジネス界だ。民間企業は CSR と持続可能性への取組みの一環として、貧困層への関わりに関心を強めており、ビジネスによる雇用、収入、富の創出に期待が寄せられている。RIB の考えは、ビジネスとして成立する形で低所得層をバリュー・チェーンに加えることにより貧困解消に貢献することである。

RIB はビジネスの競争力を高めると同時に、事業を行うコミュニティの経済、環境、社会課題の改善を目指し、貧困層を生産者、サプライヤー、ディストリビューター、事業主、従業員や顧客として「リード・ビジネス」のバリュー・チェーンに加えることができる。

RIB 戦略が成功すれば次のような結果が生まれると予想される。

- ① 貧困層の収入が増え、教育、市場、インフラ、商品やサービスへのアクセスが可能になり、貧困層の生活状態を改善する。
- ② 低所得者が、商品やサービスの生産者や消費者としてリード企業のバリュー・チェーンに入ることにより、シェアード・バリューが生まれ、企業にとっても有益となる。
- ③ 低所得者層を市場に含めることでサプライ・コストの低下、サプライ・チェーンの保障、品質向上、差別化、市場拡大につながり、企業の利益性が向上する。

また、リード・ビジネスは以下のような形で、貧困者層を含むインクルーシブな市場の発展を支援することができる。

- ・貧困層を積極的にバリュー・チェーンへ取り込む
- ・起業家や小規模ビジネスへの投資
- ・能力開発、教育、生産性改善への投資
- ・企業方針、基準、組織インフラの設定や強化

- ・貧困層を対象とした商品やサービスに向けた新しい発想
- ・企業の CSR の一環としてのインクルーシブな事業の奨励

CSR アジアは、オックスファムと協働で、開発途上国の農業と水産業における RIB の機会を検討してきた。これらの産業は高い付加価値なしに大量の商品を産出するため、そのサプライ・チェーンの貧困層は貧困から抜け出せない傾向にある。そこで疑問となるのは、サプライ・チェーンの過程を改善すれば、貧困層により変化をもたらせるような付加価値をつけることが可能か否かだ。

こうした産業では厳しい公共規制遵守への要求が強まっており、市場競争も激しく、国際化も進み、大規模生産者が利益拡大に向けてコストを抑制する傾向が強まっている。そこで、需要、コスト、価格、品質、生産の流れ、トレーサビリティ、副産物の加工、様々な操業に関わるステークホルダーなど、バリュー・チェーンの様々な構成要因を検証するバリュー・チェーン分析が必要となる。主要な対象者は生産者、加工業者、運輸業者、卸売業者、ディストリビューターと小売業者や消費者である。

RIB の 10 原則

産業やアプローチにかかわらず RIB にとって重要なのは、以下の 10 原則である。

- ① 貧困層と社会の片隅に置かれた人々に対し、経済機会を創出し、貧困軽減を目指す
- ② 包括的であることを強調し、意図せぬ副作用を防ぐためにステークホルダー・エンゲージメントを行う
- ③ 効果的な方法でバリュー・チェーンに複数にわたり介入する
- ④ 市場を歪ませたり意図せぬ結果をもたらされないよう注意する
- ⑤ RIB のどのプロセスにおいても良いガバナンスを維持する
- ⑥ チャンスを素早く特定し、効果のない介入はやめるなど柔軟性を持つ
- ⑦ 生産性、成果と効果を定期的に監視し測定する
- ⑧ RIB の恩恵を地域の全セクターに届けられるよう、スケールリティを持つ
- ⑨ RIB のどのプロセスにおいても持続可能な開発に取り組む
- ⑩ 測定記録可能で大きな影響力を長期的にもたらす

【リチャード・ウェルフォード】CSR アジアの創設者で経済学博士。20 年にわたり CSR や環境管理を研究。香港大学教授を定年退職後、2010 年にアジア工科大学 (AIT) と共同事業であるアジア初の CSR 修士課程を創設。国際ビジネス、環境管理、労働人権、企業の社会責任についての著書多数。